

## 教会と音楽セミナー 第3回 チェコ・ブルノ市をめぐる

いよいよ地域ごとの各論です。

教会や宮殿などの観光名所は、かつて重要な文化の発信地となっていました。

ブルノを中心とするチェコのモラヴィア地方は、もともとスラヴ系の地域ですが、13世紀よりドイツ人が移り住み、近世にはハプスブルク家の支配を受けました。ドイツ系文化人の先導によって花開いた文化とは、どのようなものだったのでしょうか。

また「チェコのヴェルサイユ」といわれたヤロムニェジツェ・ナト・ロキトノウ城。ここではヨーロッパ屈指の作曲家によるイタリア語のオペラが数多く上演されていました。

同時にチェコ人の音楽監督も活躍。チェコ語によるオペラが早い時期に上演された場所でもあります。

また今年はチェコスロバキア100周年。他民族に長い間支配され続けたチェコ人の民族の意識に視野を広げ、合唱曲「モルダウ」として知られるスメタナ作曲《わが祖国》と、昨年日本で展覧会が開かれ話題となった大作「スラヴ叙事詩」の画家アルフォンス・ミュシャについても触れます。現地を旅するように、当時のチェコを偲んでみましょう！



### 第3回は、今年チェコスロバキア100周年を迎えたブルノ市から！

- ◎ 日時： 2018年4月8日(日) 10:00~12:00 (2時間)
- ◎ 場所： Space 415 (JR・メトロ中野駅より徒歩12分)
- ◎ 講座内容：

#### 1：ブルノ

- ・ 聖ヤコブ教会の聖歌隊員だったアルフォンス・ミュシャ(画家)とレオシュ・ヤナーチェク(作曲家)
- ・ ブルノの劇場で演奏されたヴィヴァルディのオペラ

#### 2：オロモウツ

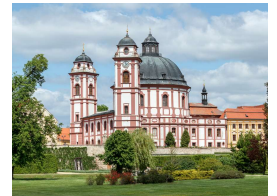
- ・ 大司教のお膝元で発展した教会音楽
- ・ ドヴォルザークが「チェコ音楽協会」に捧げたオラトリオ《聖リュドミラ》

#### 3：ヤロムニェジツェ・ナト・ロキトノウ

- ・ 「チェコのヴェルサイユ」ヤロムニェジツェ・ナト・ロキトノウ城
- ・ クヴェステンベルク伯爵の城館で演奏されたイタリアオペラの数々

#### 4：チェコの民族意識と芸術

- ・ ベドルジハ・スメタナ作曲《わが祖国》に描かれた風景
- ・ アルフォンス・ミュシャ(ムハ)の絵画作品について



- ◎ 講師： 渡邊 温子 (チェンバロ奏者 武蔵野学院大学・大学院非常勤講師)



国立音楽大学、ドイツ・ヴェルツブルグ音楽大学卒。有田千代子、グレン・ウィルソン諸氏に師事。'02年より3年間ワシントンDCに滞在、アメリカ古楽界を牽引する演奏家と共演。現在は演奏活動とともにメールマガジン「月刊バロック通信」や市民講座を通じて古楽の魅力を広める。'16年7月『古楽でめぐるヨーロッパの古都』を上梓。  
 武蔵野学院大学・大学院非常勤講師。タニタ楽器音楽教室チェンバロ科講師。日本チェンバロ協会会員。  
 ブログ：チェンバロ弾きのひとりごと



- ◎ 参加対象： 高校生以上
- ◎ 参加費用： お一人様 3,500円 (税込み)  
 ※事前予約・お振込み必要 ※高校生・大学生も同一料金
- ◎ 申込締切： 4月3日(火)お振込み到着分まで
- ◎ キャンセル規定： 3日前50%、前々日80%、前日および当日100%
- ◎ 最少催行人数： 8名様 (最大25名様まで)
- ◎ お申込・お問合せ： 株式会社アイ・ティ・エス (i Travel Square)  
 website: <http://i-travel-square.tokyo/seminar/church-music/>  
 email: [info@i-travel-square.tokyo](mailto:info@i-travel-square.tokyo) tel: 03-6706-4700

